

令和 2年度学校評価(年間評価)

学校名 大分県立佐伯支援学校

前年度評価結果の概要	・県内の主幹教諭を中心に作成された「カリキュラム・マネジメントガイドブック」を基準に、達成指標を設定しK会議を通して学校教育目標と学部目標、指導内容のつながりを全職員が理解できた。また、生活単元学習において指導内容系統表を作成し学部間のつながりを明確にした。また保護者参加型の防災学習を行い安全安心の意識を高めることができた。
------------	---

学校教育目標	中期目標	重点目標
地域でたくましく、個性豊かに生きる人間の育成	1 学校教育目標と教育内容、指導方法と学校評価のつながりの完成 2 特別支援学校教員の働き方改革の実践	1 基本的な考え方の完成と、校訓を意識した授業改善 2 時間管理ができる働き方改革

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価	
					評価	分析・考察			
基本的な考え方の完成と、校訓を意識した授業改善	(1)年度末のカリキュラム・マネジメント推進チェックリストを用いたアンケートで、3-①「私の学部の年間指導計画は、学校教育目標や学部目標を踏まえ、幼小中高の系統性を考慮して、目標の達成に必要な教育内容が配列されている」の項目においてできていたまたはどちらかといえばできていたと回答した教員100% (職員アンケート) ※H30年度(60)% R1年度(70)%	新学習指導要領に対応した「基本的な考え方」の完成と活用	①生活単元学習の「基本的な考え方」を活用した「風の子運動会」の実施と評価(4・5月) ②生活単元学習以外の「基本的な考え方」修正に向けた、「基本的な考え方」の使用マニュアル作成、及び本校独自の取組がわかりやすい様式の変更作業(PLを中心に) ③各学部での修正作業(6・7月) ④系統性の観点から教科領域担当者による「基本的な考え方」の改善(7月)	PL: 教務主任・研究主任 SL: 主幹教諭・学部主事	目標 100%	2	3-① H30 60% → R1 70% → R2 83%	・新しい学習指導要領に即しているかを確認することが必要である。	・児童生徒が以前よりものびのびとしている印象を受けました。新しい校訓への学校一丸となった取り組みが徐々に浸透しつつあると感じています。
	3-① 83%				・高等部の保健体育の特定授業を中心に、「基本的な考え方」の目標及び内容の修正を実施した。 ・昨年度からの系統性の研究により83%まで上昇した。できていないと回答する職員は0%で、どちらかといえばできていないとの回答は7%減少した。 ・小学部では、各教科の内容がどの指導形態で扱われているか全職員が理解できた。 ・「生活科、社会、理科」の指導内容を日常生活の指導や生活単元学習、作業学習への位置づけや確認をおこなった。				
自分の時間管理ができる働き方改革	(2)年度末のカリキュラム・マネジメント推進チェックリストを用いたアンケートで、1-②「私は、本校の学校として育成を目指す「幼児児童生徒像」について説明ができる」(理解できたか)、3-③「私は幼小中高の系統性や各教科等や自立活動の目標、内容との関連を意識して、日々授業を行っている」(実践できたか)の項目において、できていたまたはどちらかといえばできていたと回答した教員100%(職員アンケート) ※1-② H30年度(44)% R1年度(61)% ※3-③ H30年度(64)% R1年度(61)%	新しい校訓「元気に、かがやく、佐伯人(さいきびと)」を意識した授業改善	①校訓を意識した授業(学校教育目標との関連の明確化、担当児童生徒像に対する具体的な姿の作成、授業における校訓を意識した授業改善のポイント)の共通理解(8・9月) ②特定授業における校訓を意識した授業の実施及び改善(授業ミーティングや模擬授業など活用した事前準備)(9・10月) ③互見授業を活用した校訓を意識した授業の実施及び改善(11・12月)	PL: 研究主任・教務主任 SL: 主幹教諭・学部主事	目標 100%	3	1-② H30 44% → R1 61% → R2 81%	・校訓の内容が各教科領域の年間指導計画に網羅されているかを検証すること。 ・次年度の年間指導計画の中で「佐伯人」を意識した研究をすすめて、佐伯市にしかない地元の資材や教材を用いて学習を深める予定。さらに授業実践を行い効果を検証していきたい。	・熱心に生徒たちと向き合っている姿勢が伝わりました。成長段階に合わせて教育していくことが今後の児童生徒の取り組みや意識につながっていくと思われま
	1-② 81%				・新しい校訓の作成により、学部間での系統性を意識した授業づくりができていた(高等部特定授業による全職員の授業改善の冊子作成) ・K会議にて、校訓を意識する研修の機会を設けたことが起因して81%にアップしている。 ・小学部では、体育の中で、「元気に」「かがやく」の意識をして、主体的に取り組む授業改善ができた。 ・個別の指導計画に「校訓の達成されている姿」を記載し個別の目標と関連付けした 3-③ H30 64% → R1 61% → R2 66%				
自分の時間管理ができる働き方改革	(3)自己の勤務時間管理ができる教員として、退庁後の残業時間を月平均11時間30分以内にする。 ※R1年度(11時間55分)	勤務時間内での勤務(タイムマネジメント)を意識した業務内容・時間の選択と集中	①退庁時間を意識するために毎日19時前に退勤を促す放送を流す。 ②月1回の衛生委員会において、毎回業務削減案を最低一つ協議する。 ③繁忙期以外の時期について、全職員が休養を取りやすいように衛生委員会委員で声掛けする。	PL: 衛生管理者・管理職(衛生委員会)	目標 100%	3	R2年4月1日～R3年2月28日 1月平均残業は ●時間▲分	・学部分掌の会議のスリム化(ICT活用など)による。教員個人の授業空き時間の確保が必要である。	・残業時間は数字的に減少は見られますが、持ち帰り等の仕事の質や効率化が大切である。
	100%				・月ごとの残業時間について自分で意識することができるように毎月の残業データを、全職員に個別に配布し、また残業時間が多い(月20時間超え)職員には、個別支援や声掛けを行うことにより、R2年4月からR3年1月の期間において、一人の月当たり残業平均時間が、8時間32分であった。年間目標の11時間30分以内の目標は、達成できる見込みである。 ・月1回の衛生委員会において、業務削減改善案の検討により、学部内や分掌内での業務の見直しや、実態や職員アンケート調査に対応した休憩時間帯の確保にむけて、年度内の見直しを行うことができた。				

総合評価 次年度への展望等	新しい校訓「元気に かがやく 佐伯人(さいきびと)」をもとに、授業改善を行い佐伯支援学校が目指す児童生徒像を、教職員および保護者が認知することができた。年間指導計画が新学習指導要領に沿った内容で実施できるか検証が必要である。
------------------	--